

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホームあかつき防府		
所在地	防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
調査実施日	令和3年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、一人一人の状態を考察し、役割を持ってもらい、じっとしていることの不安・苦痛を察することで日々の生活に生きがいを感じていただけることをテーマに支援を心掛けている。特に外出することを日常とし、積極的に地域社会とのかかわりを持つ努力をしている。観光地やイベントへの参加だけでなく、日常生活のスーパーでの買い物、入院者のお見舞い、理髪店での散髪、庭の草取り、日向ぼっこ、空いた時間のドライブなど身体介護に偏らない支援という形でサービスの心掛けている。職員には一人ひとり目標を持って、外部研修、施設内研修の参加以外にもリーダーが指導者として自己研鑽を心掛けており職員一人一人の個性を尊重しながら、チームとして成立する心豊かな認知症介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中にあり集団行動や外出が制限される中で、職員は利用者が生き生きと笑顔溢れる毎日であるようにとゆったりと寄り添われ、これまでの暮らし方や個性を振り返られながら、発した言葉や表情、行動を通して、利用者一人ひとりの希望に添ったケアができているかを常に話し合っておられます。グラウンドゴルフの見学や畑づくりと収穫、近所のスーパーマーケットに買物に出かけられたり、馴染みの理美容院の利用、季節の花見(桜、コスモス、紅葉等)や馴染みの場所へドライブ(天満宮、三田尻港、市内)をされる他、家族の協力を得ての外出や一時帰宅、外食など、コロナ禍の中でも、一人ひとりの希望に添って出かけられるように取り組んでおられます。事業所では全ての職員が質を向上させていけるよう、希望や段階に応じての外部研修受講や外部講師等による毎月の拠点研修への全員受講、各職員が講師を担当して力をつける内部研修、教育担当者を中心とした新人研修など、学びの機会を多く確保されており、職員が自身の課題解決に受講機会を活用できるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き生きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所以来理念は変えていない。また行動規範も同様である。しかしながら、昨年はコロナ対策の影響および入居者様の重度化により本来の共同生活といった観点から介護の比重が高くなっている感が強い。理念を設立時に作り上げた時に立ち返り、個々の入居者様の生活により寄り添うことができるよう、職員一人一人が理想のグループホーム像を再度考えた。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、各ユニットの入り口に掲示している。管理者と職員は、ユニット会議やカンファレンス時に理念について話し合い共有している。「利用者の個性や生活リズムに添ったケアになっているか」を話し合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として地域行事(夏祭り・文化祭)や清掃活動(地域・小学校)・避難訓練には毎回参加している。地域からはボランティア活動の一環として歌や舞踊を披露して頂いたり、地域の小学校の生徒さんとの交流、中学校の生徒さんの職業体験などがあげられる。一般の訪問などは少ないので施設側から積極的に日常生活の一環として外出し、散歩、スーパーでの買い物、理髪店での散髪などを実施するようにしている。	自治会に加入し、職員は地域や小学校の清掃作業(草刈りや溝掃除)に参加している。地域での行事は自治会を通して把握しているが、コロナ禍の為、利用者が参加できる行事は中止となっている。拠点施設主催の行事も開催していない。ボランティアの来訪も待っている。地域の馴染みの理美容院に出かけ、散歩時には近所の人やグラウンドゴルフ参加者と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期においては施設入居申し込みのご家族の方、また他の介護サービスの職員の方のみ、グループホームの理念、認知症共同生活の様子などを紹介するにとどまった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価自体を職員に分担してもらうことで、一元的な評価でなく、多面的な評価にすることで介護の改善に取り組むことができた。	管理者は、月1回のユニット会議の中で「手引書」や「やまぐち介護サービスネットワーク冊子」を参考に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を全員に配布して記入してもらい、まとめている。前回の外部評価結果を受けて、自己評価に全員で取り組み、応急手当や初期対応について熱中症や誤薬、手洗い法、転倒、骨折等についての実践訓練を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる？	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あかつき苑として開催されている運営推進会議に参加し、グループホーム個別の問題などのご意見などを聞くことができています。認知症介護については地域における避けて通れない課題になっており、身体介護だけでなく、認知症介護の特殊性、家族だからできる介護と施設だからできる介護と抱え	会議は、拠点施設合同で2か月に1回、文書送付による開催としている。利用状況や新型コロナウイルスについて、研修状況などについて文書を送付し、メンバーからは、非常時や災害時、感染症対策等の拠点施設での具体的な対応について、文書や電話等で寄せられている。事業所独自の開催ではないので、双方向的な会議とならず、十分な話し合いができていない。	・事業所独自の運営推進会議の開催
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡協議会や集団指導などの場には必ず参加している。また水害避難訓練実施の際は市としての意見などを聞き、緊急時の避難活動の参考にしている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向くなどして、情報交換や事例相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換や困難事例の相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための委員会は毎年メンバーを入れ替えてマンネリ化しないよう研修や会議を開催している。また虐待防止の活動にも取り組んでいる。	職員は「身体拘束マニュアル」を基にした内部研修で身体拘束、虐待について、スピーチロック、フィジカルロック、ドラックロック等について学ぶと共に、年4回開催している職員による「身体拘束廃止委員会」の事例を通して、身体拘束、虐待の内容、弊害について理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは職員が一緒に出かけたり、気分転換を図る工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のための委員会発足と同時に虐待防止の活動にも取り組んでいる。新卒の職員が初任者研修で学んできたストレスマネジメントの資料を参考にして職員全員に閲覧という形で勉強した。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人は成年後見人の対象となる方がおり、具体的に勉強となる事例が発生し、職員で共有することができた。また、家族による利用料未払いの事例もあり、制度的にいかにより支援したらよいか、また経済的虐待という面からも実際の事例として勉強し、その対応を組織として取り組むことができた。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には充分時間を取りご家族の意向を確認するとともに、重要事項の説明をご理解いただけるよう配慮している。また遠方にお住いの親族もいらっしゃることで文面だけでなく、口頭での連絡を行いながら、施設での方向性について具体的に説明するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成者変更に伴い改めて支援計画の見直しを行い、個人の想い、家族の想いを再度聞き取ることを実施した。コロナ化において改めて施設内での生活、役割の重要性を職員全員が実感する事で、より施設サービスの新しい発想を具現化するようにした。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時(市内在住者のみで研修室で30分間)や介護計画作成時、運営推進会議参加時、電話、メール、ラインなどで、意見や要望を聞いている。苦情や意見は拠点施設長に報告し、支援経過記録や申し送り簿に記録して、職員全員で共有している。家族からは、面会についてや利用者とのかわり、部屋替え希望、事故について(誤薬、転倒事故)は「何で、どうして、これからは」の質問が多く寄せられており、それらを運営に反映させている。個別ケアに関する要望にはその都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はそれぞれ担当の入居者を持ち、それぞれの発想で寄り添うことを心掛けている。趣味、外出、日常の役割など無理なくできることを提供することの大切さを実感していると考えている。特にユニット会議ではおひとりおひとりの状態を報告しながら他の職員の意見も参考にしながら、日々の寄り添いの手段として支援の具現化に努めている。	管理者は、月1回のユニット会議時や申し送り時、年2回の面談時に聞く他、日常業務の中で意見や提案を聞く機会を設けている。職員が意見が言いやすいように、管理者の方から一人ひとりに言葉かけをしている。年2回の面談時には、職員個々の目標管理シートの進捗状況も聞いている。職員からは、業務改善に関すること(入浴の時間帯、食事の形態、掃除)や勤務体制、寄り添うことの徹底等についてあり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在のスタッフの中で自宅でも介護に携わっているものが5名 育児に携わっているものが2名いるためその状況をスタッフ全員で理解することで、協力する姿勢が出来ていると考える。職場でのストレス 家庭でのストレスを職場全体で理解することが、結果的に入居者に対するより良いサービスにつながることを職員全体で理解するよう努力している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年は2名の新人社員を迎えることができ新規に教育担当を指名し教育に当たってもらった。日々のOJTの重要性を職員全員が実感するとともに先輩職員としての介護に対する意識向上にもつながった。外部研修では実践者研修に1名、リーダー研修に1名、管理者研修に1名参加することができ、さらにそれを他の職員に波及する研修会を行い全体のレベルアップにつながったと考える。また、個人の目標管理シートを作成し、年度の目標を明確にすることで自己啓発につながっている。ただしこの手法は本年が最初であることで、まだ未完成で自己の目標の	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度はリーダー研修に1名参加している。受講後は研修報告書を提出し、内部研修時に伝達して全員が共有している。拠点研修は、看護師が年間計画を作成し、毎月1回、外部講師や各事業所職員が講師となって、急変時の対応や新型コロナウイルス感染症、救命救急法とAEDの使用方法、褥瘡、手洗い法等についてあり、全員が受講している。内部研修は、毎月1回、職員が交代して講師となって、緊急時の対応、肺炎、熱中症、脱水症、透析、誤薬について、外部研修や拠点研修の報告等を実施している。新人研修は、法人研修が終了後、教育担当者を中心に、日常業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術が学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会には管理者をメインにネットワークづくりに努力している。自己の施設だけでは限界のある運営方法、支援のアイデアも、他の施設の職員との交流によってたくさんの気づきが得られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に頂いた情報をそのままのみにするのではなく、初期の段階で基本情報を積み上げる努力をしている。いかに入居者本人を職員が理解できるかが、良質なサービスの提供につながると考えている。その為入居者に慣れていただくのではなく、私たち職員がいかに入居者の不安感の払拭がいち早くでき、施設としての個別のサービスにつなげられると考えている。計画作成担当者が職員それぞれの意見を集約するように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りを家族の意向 CMの意見 ご本人との面談を行い、入居判定会議を行うようにしている。当施設の現状の支援をまず家族に説明しながら、日常生活が適合できるか否か、また自施設での対応ができるか否かを検討することになっている。体力の維持に対する要望が特に多く、特養のOTに協力をもらいながら、支援の手段としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には常に共同スペースで過ごしていただくよう配慮している。その際、何かしら作業 役割 手作業 会話の生まれる環境を作ることを心掛けている。また、家事への参加として洗濯物たたみ、掃除、草取り、畑仕事などを一緒にするようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方に居住されていたり、仕事などの都合で、面会できる頻度には差があるが、面会時間に制限をなくし、いつでも話ができるようにしている。また、今季一時帰宅の機会を定期的実施されているご家族が3名よりご家族の話聞く機会が増え、その際、必ず職員が支援経過や写真を活用して近況を報告し、ご家族にも協力していただける支援を一緒に考えるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	比較的友人、知人の訪問は少なくなってきた。待っている体制から出かけていくようにしている。ご家族にお願いしてご自宅で何泊か過ごしていただいたり、生まれ故郷でのご自宅探索、外出時には昔なじみのある場所 お店に行ったりしている。また、調髪は市内の理髪店、馴染みの美容室を利用することになっている。	家族の面会(市内在住者のみ、研修室で30分間)の他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの理美容院の利用や馴染みのスーパーでの買物、懐かしい場所(天満宮、三田尻港周辺、銀座アーケード商店街)をドライブして外出する他、家族の協力を得て外出や一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	従来は入居者同士の相性で席を配置していたが、現在は、極力みんなが顔が見える距離にいられるように配慮している。当然、入居者同士のトラブルもあるが、そこに職員を配置することでよい関係が保てるように配慮している。その為、入居者同士での支援の様子がうかがえたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先や入所先に赴き面会をするようにしている。特に入所していたころのお写真であるとか寄せ書きなどを持参し、ご家族とも関係を維持するとともに相談があれば対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援経過に毎月担当職員がモニタリングとして評価を実施している。計画作成担当者はその内容をチェックし、介護計画の修正に役立てている。またユニット会議の席上では毎回個人別に、現状の問題点や支援計画アイデアの聞き取りを行うこととして、日常の支援に役立てている。	入居時にはフェイスシートや基本情報(暮らしの情報、本人、家族の意向、趣味、好むこと、好まないこと)、アセスメントを活用して思いの把握に努めている。日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、行動、職員の気づきを支援経過記録に記録して思いの把握に努めている。利用者を担当している職員が、月毎、本人の思いや意向をまとめ、介護計画に活かせるようにしている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	溢れ出すように昔話が始まる またその話に加わる。そんなキーワードを共有するようにし、どの職員もツボを把握し、また新しい発見を日常業務の中で伝えあうようにしている。ご家族がいらっしゃった時は、新しい発見をお伝えするとともに、生活歴をお聞きし、さらに入居者が共感する話題の発掘に努めるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援経過にその人の心情観察なども加えることで常に安心して過ごせる状態を模索し、職員全員で情報の共有を意識するように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には1ヶ月ごとに支援経過表を総括し、評価 まとめを記入している。さらに3ヶ月半年でモニタリングを実施し、ユニット会議の席上で計画作成担当者が意見などの取りまとめを行っている。介護計画書の更新時にはご家族に対し説明を行い、遠方のご家族には書面を郵送で送るほか電話などでご意向の確認なども行っている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、月1回、カンファレンスを実施し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師、栄養士、医学療法士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。支援経過表を基に1か月毎にまとめている。3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の意向に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の日常業務での情報交換が大切と考えているが、支援経過記録や申し送りノートでの確認 情報の共有もあわせて活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養と併設しているというスケールメリットを生かし、OTによる体操教室への参加 特養主催の研修会への参加など積極的に行っている。また、事業所独自の対応として ご家族の希望を聞き自宅までの送迎や、馴染みのある場所までドライブに出かける。入院者のお見舞い、葬儀への参列などその人の生活歴などを考えた発想、対応に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での生活を実践するために、住んでいた場所 天満宮や三田尻港駅周辺 銀座アーケード商店街などの記憶に残る施設 また買い物することで生活の行動などを喚起できるよう外出を常に日常生活の中に取り入れていくようにしている。自治会員として地域の行事には声をかけていただけることで、イベントなどには極力参加するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月月曜日嘱託医の杉山医院による往診をしてもらっている。当日事前に個人のバイタル表と相談事項を記入し、往診の際医師の助言をもらうようにしている。また従来からのかかりつけ医の受診を希望されているご家族には、職員が付き添い適切な健康状態の報告と医師への相談の技術を磨くように心がけている。	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は週1回、訪問診療がある。他のかかりつけ医や他科受診は事業所が受診支援をし、利用者の状態の報告をしている。受診結果は、家族には電話やメール、面会時に報告している。職員は、支援経過記録や業務日誌、申し送りノートに記録して共有している。緊急時や夜間は管理者に報告し、看護師や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護師が不在であるため介護職員がその業務をできる範囲で代行している。バイタルチェック、様子観察による健康状態の把握 服薬管理 受診対応 医師への連絡報告などを行っている。また、併設の特養の看護師に相談して入居者の健康管理に役立てている。状態によってはご家族と連携を取りながら専門医への受診も行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医 かかりつけ医には定期受診で相談することはもちろん、入院の際はご家族の都合も加味しながら援助するようにしている。家族の対応が困難な場合も施設側が洗濯物やおむつなどの対応も行い、早期退院に向けて協力することとしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期における家族のご意向を聞くようにしている。ただし、看護師不在のため食事の経口摂取が出来なくなった時は退去の扱いとなることを説明している。入院後3ヶ月はお部屋を確保することとしており退院後の施設での生活の再開には最大限協力することとしている。	重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族、関係者の意向を聞き、主治医や職員と話し合い、方針を決めて共有して、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	行動制限をしない反面、転倒事故の危険は常にあり、本年は骨折、打撲事故が3件発生している。未然にリスクについては普段から職員間で対応を話し合い、ユニット会議 嘱託医の往診の際には協議 相談をしている。その他事故の際は報告書を作成し、対策対応を記入して実行するようにしている。ユニット研修 および施設での研修では看護師による応急対応の研修を受けており緊急対応の訓練も実施している。	事例が生じた場合は、その日の職員全員で話し合い、事故・ヒヤリハット報告書に発生状況、対処状況、原因分析等を記録して回覧し、全員に周知している。月1回のユニット会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。拠点研修で急変時の対応や救命救急法とAEDの使用方法、新型コロナウイルス感染症について学び、内部研修では事故防止について学んでいる。事例を基に、緊急連絡時の対応や熱中症、誤薬、手洗い方法、骨折、転倒等について実践研修を実施しているが、応急手当の習得について全ての職員が身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本人は火災避難訓練を2回、水害避難訓練を実施している。特に水害避難訓練では近隣の小学校講堂まで避難するとの想定も誘導から車を使った搬送まで実施し、その対応の困難さを実感することができた。結果的には職員も入居者も同じ場所に集合して次の行動に移ることが避難には欠かせないということ職員全体に周知することができた。	消防署の協力を得て、年2回、拠点施設合同で昼夜の火災と水害を想定した、通報、避難訓練、避難経路の確認と小学校までの避難を利用者も参加して実施している。今後、事業所としての「防災マニュアル」の作成と災害時の連絡網の作成に取り組むこととしている。非常用食品は事業所で備蓄している。	・地域との連絡体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいの点では、まだまだ充分できているとは言えない。危険回避のためと言いながら強い口調になってしまうことがある。ただし、ユニット研修でもこの問題を取り上げたり、3名参加した初任者研修の内容を既存の職員に披露することによって、従来よりは意識するようになったと考えている。また支援のストレスを、職員全員で理解するとともに極力冷静で業務に当たれる環境作りを心掛けるようにしている。	職員は内部研修(接遇、プライバシー保護)で学び、管理者の「目上の人(利用者)への言葉づかいは丁寧に」の指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。個人記録の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者が望んでいることを常に推測するように心がけている。その実現のためにご家族に協力してもらったりしてご兄弟との面談なども実現している。また日常生活の中でスーパーでのお買い物 喫茶店 外食では提案しながらも自分で選んでもらったり 代金の受け渡しもできる人にはレジに並んでいただいたりしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としては食事の時間をはじめとして、日常の生活はほぼ時間が決まっている。ただ強制するのではなく誘導、案内する姿勢は崩さないようにしている。誘導の技術を磨くことで業務もスムーズに出来るのだが、難しい時はその人のペースに合わせ、無理強いはいはないというルールにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一応職員がその日の気候に合わせて準備するが、選択できるよう配慮している。また外出時の服装はそのままではなく、その日の気分に合わせて選んでいただいている。定期的に女性にはマニキュアを塗ったりすることもある。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査は入所時に行っているが、みんなで一緒に食事をするという習慣作りを定着させている。食事は給食施設から毎回届けていただいている。出来る方には配膳などのお手伝いをいただいている。基本ご自分の好みの食器で食事をとっていただき、食器の片付け 洗浄にも加わっていただいている。また、手出し無用の食事作りではお買い物から調理 盛り付けまで入居者さんにカレーを作っていただいた。	食事は、三食とも業者からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。入居時に嗜好調査を行い、利用者の状態に合わせて食事の形態(つぶす、刻む、とろみをつける)や食器の工夫をして提供している。お気に入りの食器を持参している利用者もいる。年1回、拠点の厨房から嗜好調査(食べたいもの、好きなもの、嫌いなもの)を実施し、献立作りに反映している。利用者は配膳やテーブル拭き、お盆拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、チーズケーキ、ぜんざい)や季節行事食(おせち、節句、ハロウィン、クリスマス)、家族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作成しており、食事摂取 水分摂取の記録などは職員が行っている。体調不良や摂取状態により食事形態の変更、食器の変更なども行っており、都度、状況に合わせた対応が出来ている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き 夜間の入れ歯洗浄は実施しており、口腔の状態もチェックするようにしている。協力歯科医の山野医院にも受診したり、関係機関の研修にも参加し、口腔ケアの勉強もしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間と入居者に合わせたトイレ誘導を実施しており、トイレでの自立排泄を心掛けている。	排泄チェック表を活用して排泄習慣やパターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。おむつやパッドを使用する場合は根拠をはっきりさせ、家族にも説明して使用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年度の自己目標で排泄を課題に挙げている職員を中心に個々の介助および便秘予防に役立っている。排尿、便秘の薬を服用している入居者も多く記録および状態観察で医師と相談しながら服薬の調整も行っている。また、運動が大切という認識から、毎日テレビ体操、平日は体操教室へも参加している。食事については栄養士の考えた繊維質の多い食材になっているので、職員は水分摂取が十分取れているかのチェックはできている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせた入浴をすることになっているが、現在は日中入浴で入居者が受け入れてくれている。また、入浴しているにも関わらず入れてもらっていないという入居者にはその都度入浴を実施したりして対応するようにしている。花水木ユニットでは主に午前中、花梨ユニットでは午後の時間を入浴時間としている。また入居者の状態によっては花梨が花水木の一般浴槽を使用することも対応として実施している。	入浴は毎日、8時から17時30分の間可能で、週2回は入浴できるように支援している。入浴時間や順番、湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、利用者の希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や部分清拭、シャワー浴、特殊浴槽の利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しでも安眠が得られるようにと日中の活動を重要視している。一人ひとりのペースも大切にしながら夜の入床については一律にはしていない。ベットメイクも毎日実施しており、清潔 整頓を心がけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診、受診介助の際、薬も合わせて施設職員が預かっており、管理 服薬介助も実施している。薬情も一括してファイリングしており都度確認するようにしている。変更があった場合などには、注意点など副作用など注意点を申し送りで伝達することになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の大切さの実践として、食事の盛り付け 洗い物 お盆拭き 掃除 手すり拭き ゴミだし ゴミ箱づくり 食卓拭き 洗濯物たたみ 花の水やり 草抜き 畑の草取りなどを日常の共同生活の役割として実践していただいている。また、イベントとして入居者だけで食事作りやおやつ作りも企画し、お買い物から盛り付け 配膳までしていただく企画も行っている。楽しみの援助としてはDVDを活用し、懐かしの歌番組などを音と映像で常に視聴できるようにしてその中で、裁縫や編み物 貼り絵工作 パズル ゲームなどを楽しめるように心がけている。季節感も大切にしようという試みの中では、地域の行事への参加 演奏 演芸ボランティアとの交流も積極的に行っている。	箒や掃除機を使って掃除(掃く、拭く、手すり拭き)、リネン交換、カーテンの開閉、ゴミ出し、ゴミ箱づくり、食事の盛り付け、お盆拭き、食卓拭き、食事づくりやおやつづくり、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、プランターの水やり、苗植え、畑の草取り、野菜の収穫(西瓜、さつまいも)、雑巾を縫う、テレビやDVDの視聴、ラジオを聞く、本や雑誌、新聞を読む、写真集を見る、歌を歌う、折り紙、貼り絵、ぬりえ、習字、写経、ペン習字、日記を書く、歌を歌う、カラオケ、壁画づくり、体操(ラジオ体操、テレビ体操)、体操教室(リハビリ体操) 参加、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、四字熟語、パズル、数字合わせ、間違い探し)、風船バレー、ボランティアの来訪、誕生日会、敬老会、ドライブ、買物など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は常に心がけており、日常生活の一部としてとらえ積極的に行っている。単なるドライブも季節感を味わえる活動としてその中で、買い物 花摘み 入院者のお見舞い 市内の理容店での散髪 喫茶店利用などを実施している。楽しみとしては正月の初詣から始まり、観梅 花見 花菖蒲 紫陽花 ひまわり畑 花博 紅葉 足湯など連日実施すること多い。	拠点施設の敷地内や周辺の散歩、中庭での外気浴、日光浴、グラウンドゴルフの見学、畑づくり、野菜の収穫、近所のスーパーマーケットで買い物、季節の花見(桜、コスモス、紅葉等)、ドライブ(天満宮、三田尻港、防府市内)、馴染みの理美容院の利用の他、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、外食など、コロナ禍の中でも一人ひとりの希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりの預り金を活用し、お買い物 喫茶店利用の際は可能な限りご自分でのお支払いをしていただくように心がけている。個別対応が困難な場合は職員がまとめて支払いをすることになるが、メニューの選択はご自分でしていただくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在家族と電話で連絡を取り合っている入居者は1名 個人の携帯電話を使っているが、他の入居者の電話連絡の要請はない。手紙については年賀状のやり取りを勧め直筆でできる人には付き添いながら作成している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感があり、自然を常に体感できる環境の中でさらに季節を意識できる様に飾り付けをするようにしている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。室温 換気については常に意識し入居者に居心地よく過ごしていただけるように配慮している。	リビングは大きな窓から入る自然光で明るく、大平山や広々としたグラウンドゴルフ場、小学校舎が見えて、花壇のパンジーとともに季節を感じることができる。室内には食卓や椅子、ソファをゆったりと配置し、一人ひとりが落ち着いて過ごせるように工夫をしている。キッチンからはご飯を炊く匂いや茶碗を洗う音がして生活感を感じることができる。壁面にはクリスマスの飾りつけや大きな日めくりカレンダーが飾ってある。温度、湿度、換気に配慮し、定期的に消毒をして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係には特に配慮して、テーブルの配置 席替えなども行っている。特に会話が弾む 相性などの人間関係は一定ではないことから、スタッフ会議の際に職員からの意見を反映させている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人 家族のご意向も参考にしながら入居者それぞれが落ち着ける部屋作りをしている。思い出の品を持ち込んだり、逆に極力少なくして混乱を避ける工夫をして、一人一人の部屋作りをしている。	箆笥や衣装ケース、衣装かけ、三段ボックス、小物引き出し、テレビ、ソファ、時計、温湿度計、化粧品、日用品等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、自作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し、一人でもトイレに行ける 自分の部屋に戻ることができる 体操教室まで行けるなど分かり易い生活環境を作ることを心掛けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あかつき防府

作成日： 令和 4 年 4 月 18 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	・運営推進会議、グループホーム独自の開催が過去1度しか出来ていない。	・グループホーム独自での認知症介護に特化した運営推進会議の開催を実施する。	・運営推進会議の参加者に声掛けを行い、グループホーム独自で会議を定期的実施する。 ・御家族にも声掛けを行い新規参加者をその都度募る。	今期中
2	35	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施ができていない。	・全職員が参加、実施できる応急手当、初期訓練を定期的実施する。	・施設内研修(特養合同)は実施しており、参加できる職員のみ参加しているので、その資料を基にユニット内研修で実施し看護師の協力も得て全職員が定期的訓練が実施出来るようにする。	今期中
3	36	災害時等の避難時の地域との協力体制ができていない。	・災害時等の地域による協力体制の構築	自治会の方々に協力体制の依頼。地域での災害時の避難等の把握。施設での災害時の避難の報告。運営会議への消防職員に定期的参加する。	今期中
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。